

小中高校生 研究協力員募集

九州大学 芸術工学研究院 感性多様性研究室では、色覚の多様性を研究しています。現在、色と温度の関連づけの発達を明らかにするため、簡単な調査に参加していただける小学生、中学生、高校生を募集しています。以下が調査の概要となっております。



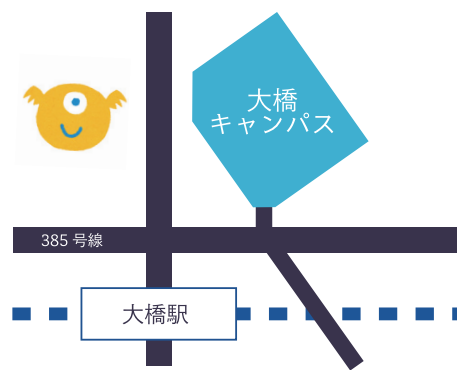
内容 2枚の色紙のどちらが温かく感じるかを選択してもらう調査と色覚調査を行います。

対象者 日本語を母語とする、調査実施時点で小学生から高校生の方のような色覚を持つ人でも参加可能です。

所要時間 内容の説明、色覚調査を含めて 1～2時間程度

謝礼 図書カード2千円分と、色覚の多様性をわかりやすく説明した冊子『はじめて色覚にであう本』と、保護者様向けの解説書をお渡しいたします。なお、交通費はお支払いできませんのでご了承ください。

場所 九州大学大橋キャンパス8号館2階



* 本研究は、芸術工学研究院の研究倫理審査の了承を得て実施します。また、協力者から得られたデータはコード化され、個人情報と結びつくことはありません。個人情報は漏洩しないよう厳重に管理し、研究目的以外には使用いたしません。調査前に説明を十分行い、お子様（協力者）と保護者様が同意された場合のみ調査を実施します。同意されない場合も、不利益を受けることはありません。調査当日に保護者様が同伴できない場合は、事前に説明書と同意書をお送りいたします。保護者様の同意書を協力者様が当日お持ちください。



ご興味ある方はこちら
にご連絡ください

感性多様性研究室 HP

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~divsense/index.html>



■ 色覚の多様性とは

色の知覚は、目の奥にある錐体という細胞が特定の光の波長に反応し、脳にその信号が送られることで発生します。ヒトの一般的な色覚は3種類の錐体の応答を比較することによる3色覚ですが、錐体が2種類の2色覚など、少数派の色覚をもつ人もいます。少数派の色覚をもつ人の多くは、3色覚では区別する「赤」や「緑」を似たような色に知覚するいっぽうで、色によるカモフラージュにまどわされにくいことなどが知られています。



■ この研究の目的

色と見た目の温度の関連づけについては、これまでも数多くの研究がなされてきました。しかし、この関連づけがどのように形成されていくのか、また色覚の多様性がこの関連づけの形成にどのような効果をもたらすのかはまだ明らかになっていません。この研究では、小学生から大人を対象として調査を行い、さまざまな色覚をもつ人が発達過程でどのように色と見た目の温度の関連づけを形成するのか、また色覚という生理学的な要因だけでなく文化的、社会的な影響がこの関連づけにどのようにかわるかを明らかにすることを目的としています。



■ 研究の意義

この研究を通じて、色と見た目の温度の関連づけが、色覚が異なることや発達に伴ってどう変化するのかを明らかにしたいと考えています。この研究の結果は、どのような色覚をもつ人にも情報が正確に伝わるような配色を用いたカラーユニバーサルデザインをよりよいものにするために役立つと考えています。

